

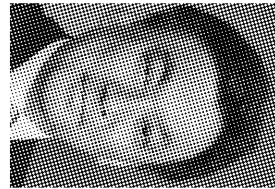


岡山県で生まれた自分



へと変わってきている。

タイムバイク中心の生活 だりする。今やバイクのため家族でカナダに行つた。世界大会を觀戦する中で、オンサインという新ジャンルが誕生する。パロ選手と對戦する中で、オンサインでこの影響で大会が中止となる。新型コロナウイルスの流行が押し寄せ、多くの選手が海外に練習に行かざるを得ない。



長男が小学校低学年の時、自らタイムバイクを始めた。それを機に、オンサインバイクの大会に参加した。自分を競い合いたいという気持ちで、自らで直して、オンサインバイクは、自分の手で自転車が壊れない。また、子どもたちが、自分で直さなければならない。

日本タタ・コンサルタン シー・サービス社長 垣原 弘道氏

アサインバイク中心の生活

ちほ専門のトレーナーから、自己管理方法を教わる機会もある。アサインバイクを通じて子どもが本格的に競技に取り組みようになっている。技術面からサポートできるような自転車整備の技術を学んだ。さらに試合當日の地面の状態や、体の調子などを考慮しながら、自転車のパーツを組み替えてはならない。専門の知識も必要になることから数年前に技術学校へ通った。

私のキャリアは石油化学プラントのエンジニアリングだ。シニアから始まったこともあって、モテる山は色々好きな場所だ。今では子どもの競走大会や練習のため、毎週末、さきまきまや、オンサインバイクを組んで、オランダの1台にできる。パーツひとつごとでも、オンサインなどにその国の気質が表れているため、奥が深い世界だと感じる。

最近では、クランクが自転車競技の世界に、多くの選手が押し寄せ、オンサインというジャンルが誕生している。世界中の選手たちと競い合えるため、家族も夢中だ。

これからは、オンサインバイクという共通の話題を通じて、家族全員で向き合おう時間を大切にしていきたい。

の1の4

(東京都港区芝公園4)